株式会社finetrack

アパレル業界での特許取得をけん引 国産アウトドアメーカーの「守り」と「攻め」

事業内容

2004年設立
アウトドアウエア・用具の企画、製造、販売

知的財産権と内容

特許6695582号	ドライレイヤー
特許5752775号	ファインポリゴン（長繊維不織布およびその長繊維不織布を有する積層生地）
特許5685569号	カミナドーム（テント）
特許5753454号	レイヤリンググローブ
特許4588799号	イザナステープ（テントの補強テープ）

他　特許権7件、商標権44件、実用新案2件　（2024年12月現在）

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

マテリアル開発課
課長　田中　由希子さん（左）
片岡　美菜さん（右）

アウトドアと日本の繊維産業を愛する企業

当社は、世界的にも有名なアウトドアメーカーで企画開発の経験を積んだ金山代表が、「自分の遊びを体現できるようなものづくりをしたい」と考え、2004年、神戸市に設立。「遊び手が作り手」というスローガンを掲げ、社員自らが遊び手となり、「自分たちが欲しい、使いたいと思う製品」を作っているのが大きな特徴の１つだ。また、衰退が著しい日本の繊維産業を何とか守りたいとする金山代表の強い想いから、製品はすべて国内生産にこだわり、製品を通して日本製の品質の良さを伝えている。今回、取材に対応いただいた田中氏と片岡氏は、当社のマテリアル開発課に所属し、知財管理を兼務している。

遊び手から生まれた「これが欲しかった」が輝く製品たち

当社の代表的な製品であり、特許取得の第一号でもあるのが、抜群の撥水機能を誇るアンダーウエア『ドライレイヤー』だ。一般的なアンダーウエアは、肌に最も近い内側に“吸水”機能を持つ生地を着用する想定のため、吸った汗が生地にとどまり、汗冷えを起こしてしまう。これに対しドライレイヤーは「“撥水”機能を持つ生地を一番肌側に着用する」という逆転の発想のもと、汗を含んだ生地を肌から遠ざけることで、肌がドライにキープされる。アウトドア好きには必需品と言っていいくらいの製品だ。これ以外にも、ダブルウォール仕様（二重構造）でありながら、驚きの薄さと軽さ、また高い耐風性も実現した画期的な山岳テント『カミナドーム』などを展開している。同テントには、特許を取得した高強度の繊維で作られたテープ『イザナステープ』が用いられており、これをテントの骨格に沿って四方に張り巡らせることで強度を高めているという。このように生み出してきた多くの素材や製品は、アウトドアのみならず、消防や山岳救助の場面での活用も期待され、販路を拡大している。

アパレル業界だからこその『先手』となった知財取得

アウトドアという非日常の空間を楽しむための製品は、日頃の地道な素材開発があってこそ、生み出すことができている。当社は開発において、大手の合成繊維メーカーに対しても「こんな機能を持つ生地を作ってくれないか」と取組みを行っているという。ドライレイヤーも、大手合成繊維メーカー（以下合繊メーカー）との共同開発により誕生した。今までにない製品ができたと喜ぶと同時に「これは守らなければ」と特許の共同出願に踏み切った。この共同出願は、合繊メーカーとの良好な関係構築の一助にもなり、その後も継続して共同開発を行えているという。また、アパレル業界は商品サイクルが早く、デザインの面から意匠権等の知財を取得するケースが少ないこともあり、

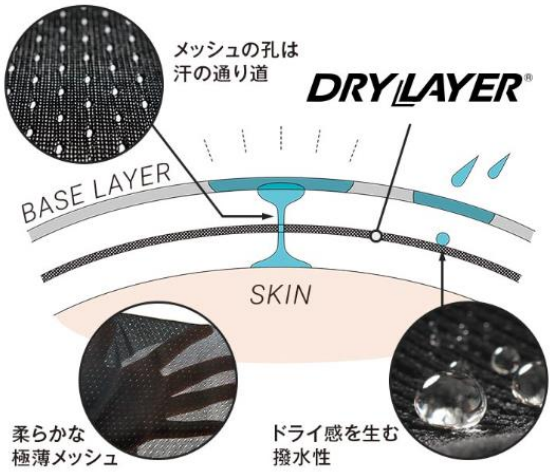
模倣被害が多い傾向にある。こうした状況に対し当社では、素材の“機能”に焦点を当てた特許を取得することで、権利の存続期間（20年間）は製品が守られるとともに、参入障壁にもできるとし、これまで12件の特許を取得してきた。過去には、他社によるドライレイヤーの模倣品が出回ったことがあったが、「特許を取得していたことで会社と製品を守ることができた」と田中氏は語る。

持っているだけ、で終わらせないために

これまで取得してきた特許は“守り”としての活用には取り組んでいるが、“攻め”としての活用にはまだ課題があるという。現在当社では、顧問弁理士と連携しながら知財の出願や模倣品に対する警告等に取り組んでいるが、田中氏と片岡氏は「他社の特許状況を調査し、自社の製品開発はもちろん、新たな技術情報の収集など、より戦略的に知財を活用していきたい」と話す。また、越境ECを活用した海外進出も視野に、知財の出願国の選定や模倣対策、知財取得・権利存続に係る費用の算出など、会社の経営戦略の一環として積極的に取り組んでいきたいという。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

知財は、社員へ自社製品の素晴らしさを伝える術としても活用しているという当社。「私たちはこんなに素晴らしい製品を作っているんだということを、社内外にもっと知ってもらいたい、という想いから、社員研修等では、自社の知財についても詳細を教えている」と話す。また、前職の経験からアパレル業界での特許取得の難しさ等をよく理解している田中氏は、「知財は製品を守ってくれるのはもちろん、それが盾となり経営や会社を守ってくれる」と力強く語った。片岡氏も「知財に取り組んでいる中小企業は少ないのではないか。まずは『知る』ところからでも始めてみてほしい」と話した。



汗を上層ウエアへスムーズに移行させて肌のドライ感を持続させるドライレイヤー

イザナステープを四方に張ることで強度と耐風性を備えたカミナドーム

知的財産活用のポイント

知的財産権は
盾・壁、そして剣にもなる

特許取得するためには、インパクトのある機能性を確認する必要があるとし、試作品を社員が実際に着用して登山を行うなど、試験も徹底している。そうして生まれたこだわりの製品を守るために取得した特許が盾となり、他社の参入を防ぐ壁となった。そしてさらなる製品開発や販路拡大を図るための剣にもなろうとしている。知的財産権と聞くと、まだまだ自社で取り組むものではないと思われる方も多いが、実際には中小企業こそ、身近にある知財を強力な味方であると「知る」ことが重要だ。

COMPANY DATA

取材：2024年12月

企業名：株式会社finetrack　**所在地**：兵庫県神戸市中央区相生町1-2-1 東成ビルディング２階
電話番号：078-599-5030　**URL**：https://www.finetrack.com/　**創業**：2004年　**資本金**：990万円　**従業員**：50名